

袋湾総合開発を発表

水保

17万平方メートルを埋立て

43年度
着工へ 合板工場など誘致

水保市は袋湾の一部を埋め立て、土地造成を行ない、工場を誘致するなど「袋湾総合開発」の計画を進めていたが、十四日の市議会本会議（一般質問）で、橋本市長から構想および計画を発表した。

同総合開発は袋湾八十一万四千平方メートルのうち水深が浅い十七万六千平方メートルを埋め立て、土地造成を行ない、この造成地に製材工場、合板工場、ミカン加工場などを誘致しようというプラン。

た二重湾になっており、茂道岬付近は水深十メートル十八メートルで深く、どんな台風のさいにも波が静かなためこれまで漁船や旅客船の避難場所になっていた。ところが袋湾地区に近い最も奥まった付近は水深が平均二・三メートルしかないで、埋め

立て適地とみられていた。そこで長さ三百九十メートル（高さ五メートル）のコンクリート堤防を築いてこの海域を締め切り、土地造成を行ない、工場敷き地をつくるという計画。埋め立てには約五十万立方メートルの土が必要だが、うち二十万立方

メートルは約二・五キロ離れた水保港内のしゅんせつ泥土を当てるので二石二鳥。残りの三十万立方メートルは袋湾内のしゅんせつ土で埋める。造成地は国道三号線にも近く、堤防は岸壁がわりに使えるので、原木や製品の積み出しもできる。

また湾内には五千トンの船舶も楽に入港できる。一部の海面はラワン材の野木場にする予定だ。さらに海中には淡水が湧（ゆる）り出しているの



う利点もある。また漁協との話し合いが残っており、港湾協会や運輸省などの意見も参考にするので、着工は未定だが、早ければ四十三年度から二年計画で着工する予定。土地造成費は約二億円を見込んでいる。

現在、水保港周辺の総合開発も進められており、袋地区には農業構造改善事業による県下最大の甘夏園地造成が新年度から着工されるので、同開発が着工されれば、袋湾を含めた水保港一帯は大きく変容することになる。